

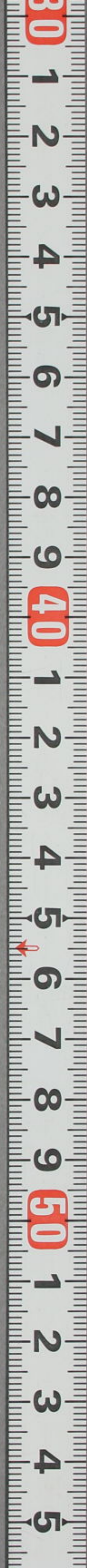


谷部良民傳

二



又 6
9668
2



若州良民傳卷之二

新龍谷村 立石浦

猿屋下人 古之浦

墨村 嘉之浦妻

紙屋 茂宗在患

松文 經右患 妻加免

松村 六右史

尾内村 孫之浦

三松 彦久次郎



尾崎村安を丈

塩屋又六同左八

相田村平十市 七云浦傳吉

細田終村孫云浦

豊口屋を次云浦

子瀬浦依左忠妻い

堀屋安村云々

小松原角左忠女つふ

若洲良民傳卷之二

新流谷村 立石浦

を安下中郡名田流谷村といふむい小野

駒と助といふ人の居と據一いふなり新流

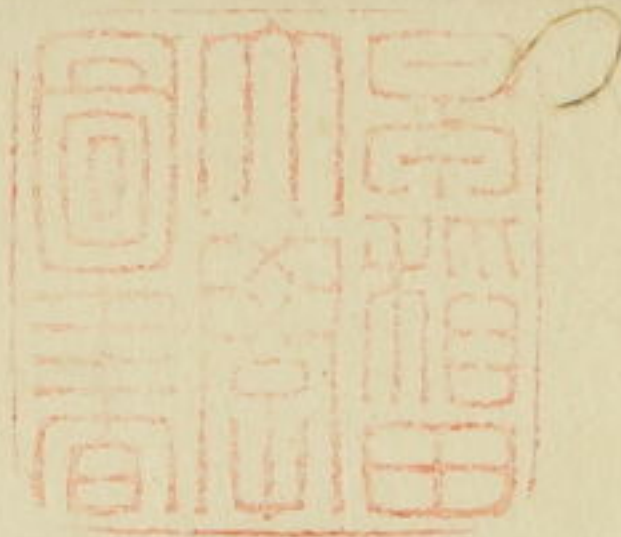
谷もえい小野と唱ふ 小野の苗字を傳ふ 村名民

老左忠といふ若も小野氏を駒と助の末孫なり

といふ傳る安ありく小野と改めて富田と名付く

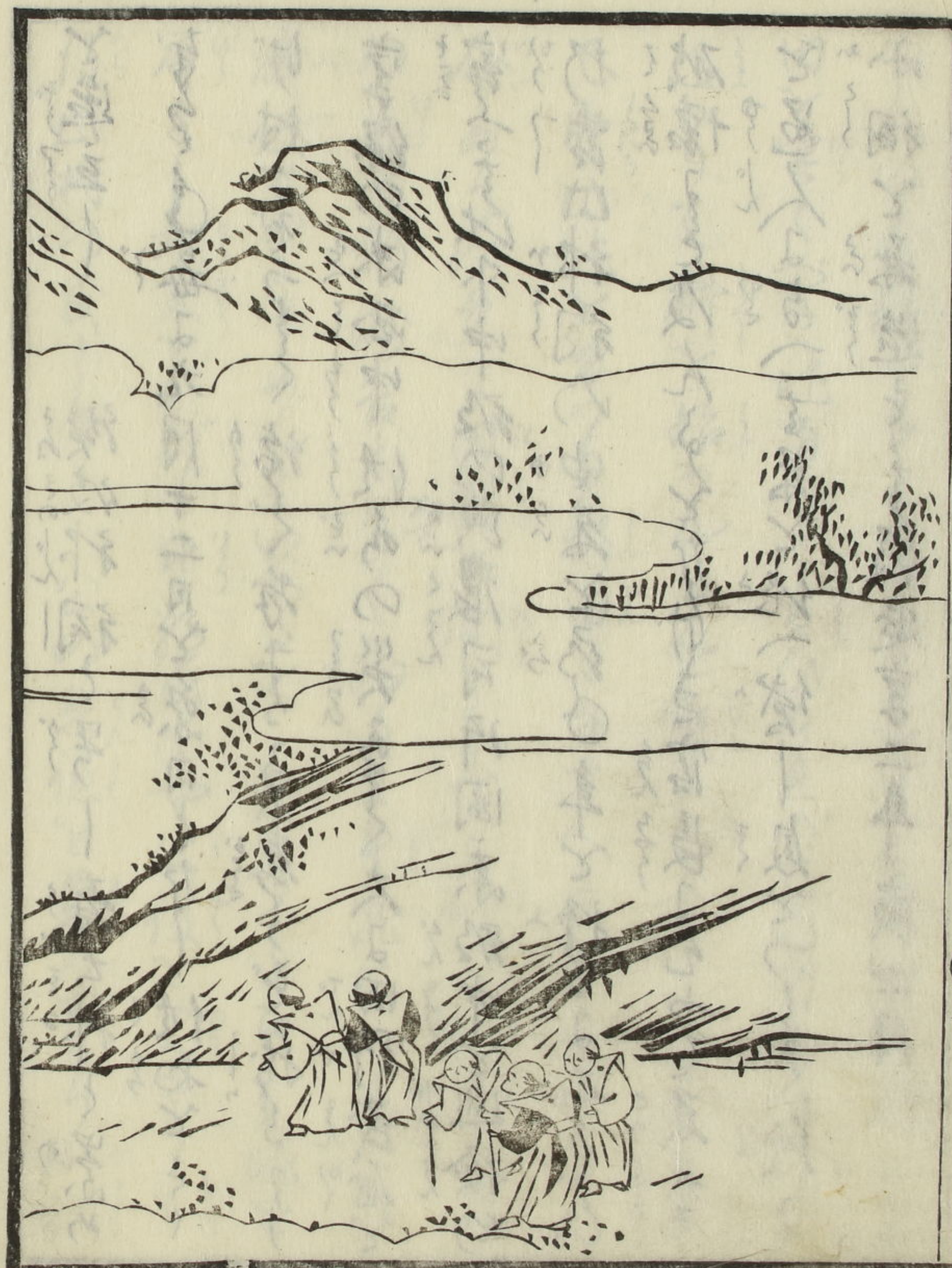
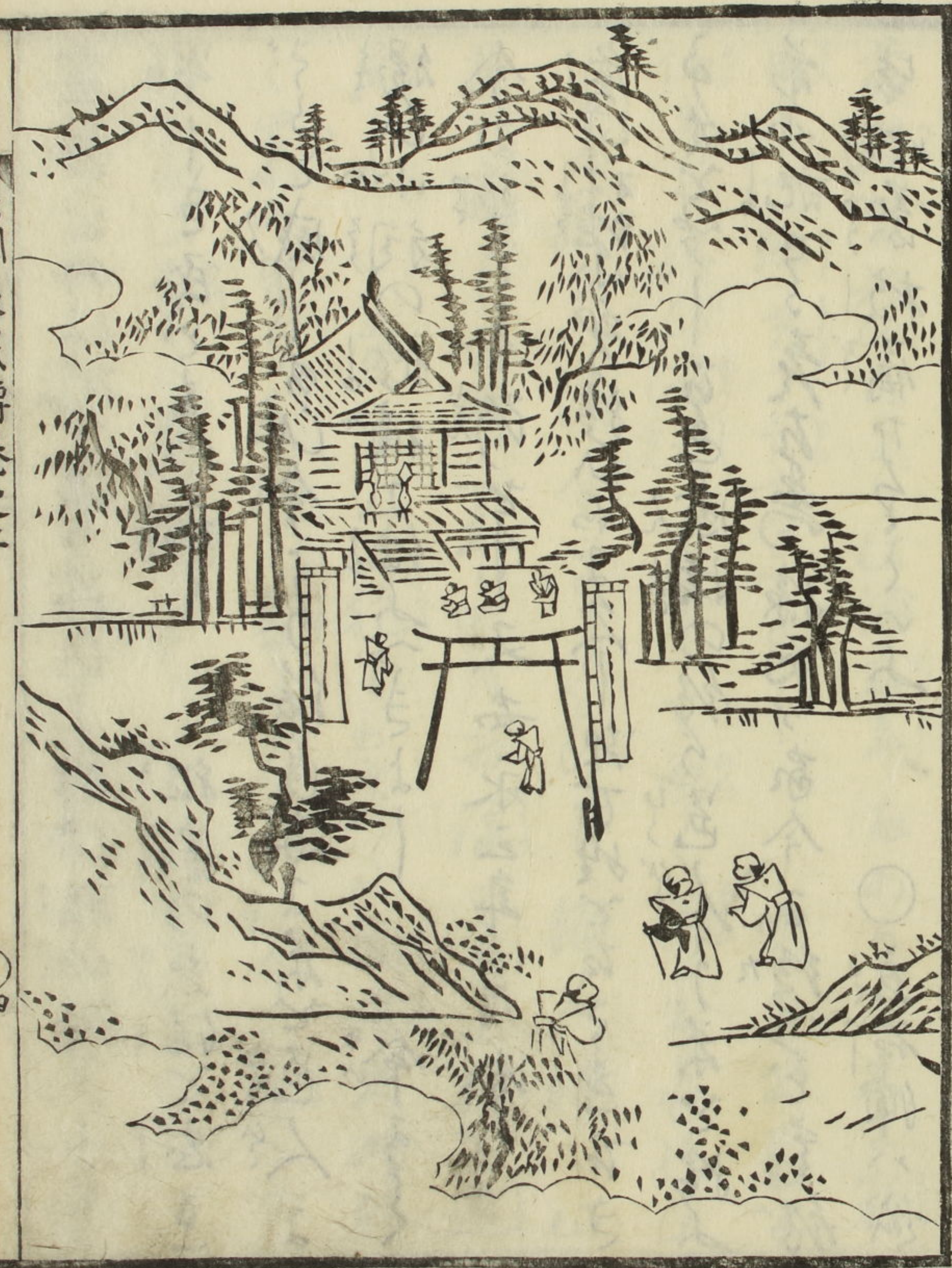
初 いふ 室平公は國の主と成りいふ政のいふ富田 たふ

村大光寺のいふ一遺をいふ いふ 孫助



二人の民耕とありてあると見えあひはるに新と
 田と云くずき地ありと云ひくまはちの考をい地と
 給りて耕と始るんと云ふと云ふ公より
 て即ち地とあり新田とあるすきより
 今あり此事は田圃と開き年と積て沃田とあり
 ぬ色と新田と号く御るよ本流谷の邑より
 城役と出さるんと云ふ公より
 解さる功業とあり計給ひてや公役と免さる
 後村の民とも公の考徳と蒙るなり小祠

と造立つくたてし
 なるも毎ごとは九月十二日と祭日まつひとなり佐和さわとさ
 げ村むらこそつとく遠とほくなる事ことありども然しかる事
 享保きやうほうの末すえ必かならず中なかつ佐和さわの災わざはひありて大おほは田野でんや民屋みんがと
 害がいふ事こと此こゝ下中げちゆう郡ぐんの典農てんぬ司し片岡かたがわ系けい郡ぐん中なかつと巡檢ぐんけんの
 折おり當あたは神祠かみい乃すなはち由來ゆらいとある年としと神かみらよある事ことい
 破壊はかいする事こと及およん事ことをなげき官長くわんちやうよりて承うけ知しる事こと干
 と邑人ちゆうじんよりて承うけ知しる事ことと此こゝ一ひと貸かし息いきとつとく終ついは
 小祠せうしと再造さいぞうする事こと後延享二年ごえんきやうにふたとし寅とら四月



靈岳公のけ洲と治り給ひ一はけ始終とまゝに
早き民どもの永く 祖宗の恵恩と忘る

と感ふあひ今より後毎々米と邑人
賜ひ小祠の修補は備へべきよし 命ある

今より米とくひ又安永三年四月今

侯は社地小祠給ひあふ久し百姓とあるまじき

ふたつと一は感懐の給ひ邑人より米と給ふ

前記より米を惠孫也が家今より絶つとまじ

皆つ系枝属なりといふ ○立石浦ハ越

前敦賀郡の内よりけ浦或年をわく大に窮

困一郷方より亡るふを 空市公是と

恤も給ひ有司は命にて厚く救と出さ給ひ

一は給ひ一浦全きとけり浦人保くけ

恵と感一明暦二年四月お深き小祠と造

又 空市公と記しそふ小國守大明神

と崇めなり氏神と等しく系記今ふ絶つず

郡官は厚き志と称して 政府はなせり

安永四年末十一月今より後年毎の系乃日神

君種よなせーりハ延享二年正月二十日若狭干と給
りりく寝費一給ふも仍状委一く傳りも
贈むづと事なり

思林赤毛浦妻

小侯町思林赤毛浦とてりるの妻思林赤毛浦の
事つゝ孝有り赤毛浦ありて後いよくそ
男小孝赤毛浦とて平生心とて一清心未だ
むすで且夕温清のつとめをさづくといふと
孝状給ふ
公卿よなせー寛延元年辰十



二月某日と稱ひ貴いありて惜しき事蹟
は傳へば只に褒揚の辭令とある一處なり

流居安宗在處

越前敦賀郡流居安といへる所は安宗在處といふ所
あり氏は吉田にて邑中の門閥なり享保十四年
肝癰となるも町の老ふといふは從來肝癰肝癰給
銀といふのあきどるは御用といふとすなり柔石屋
は銀と稱しと清くは御用の老ふもお強
て志あり傳へん事とある安宗在處つやむと得



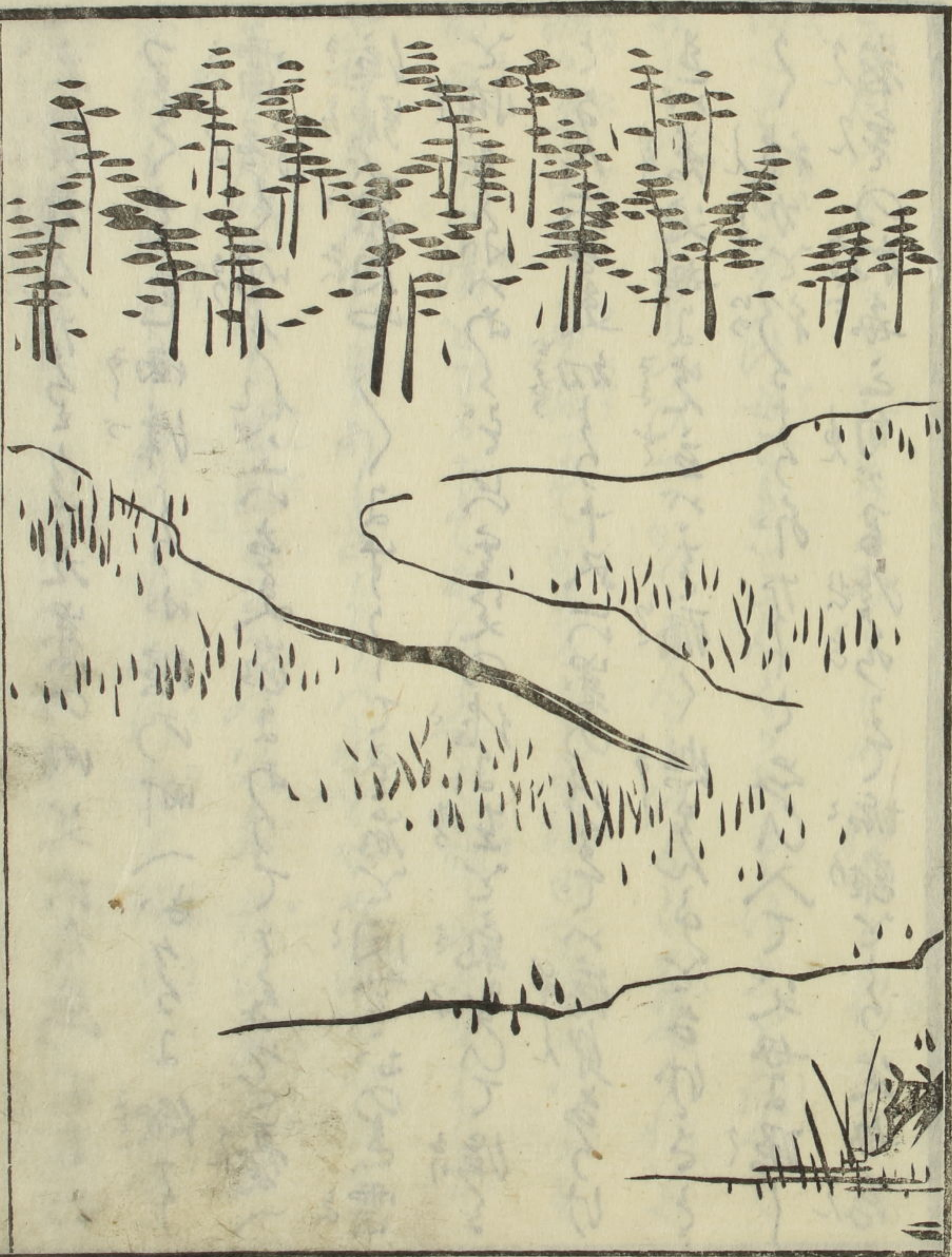
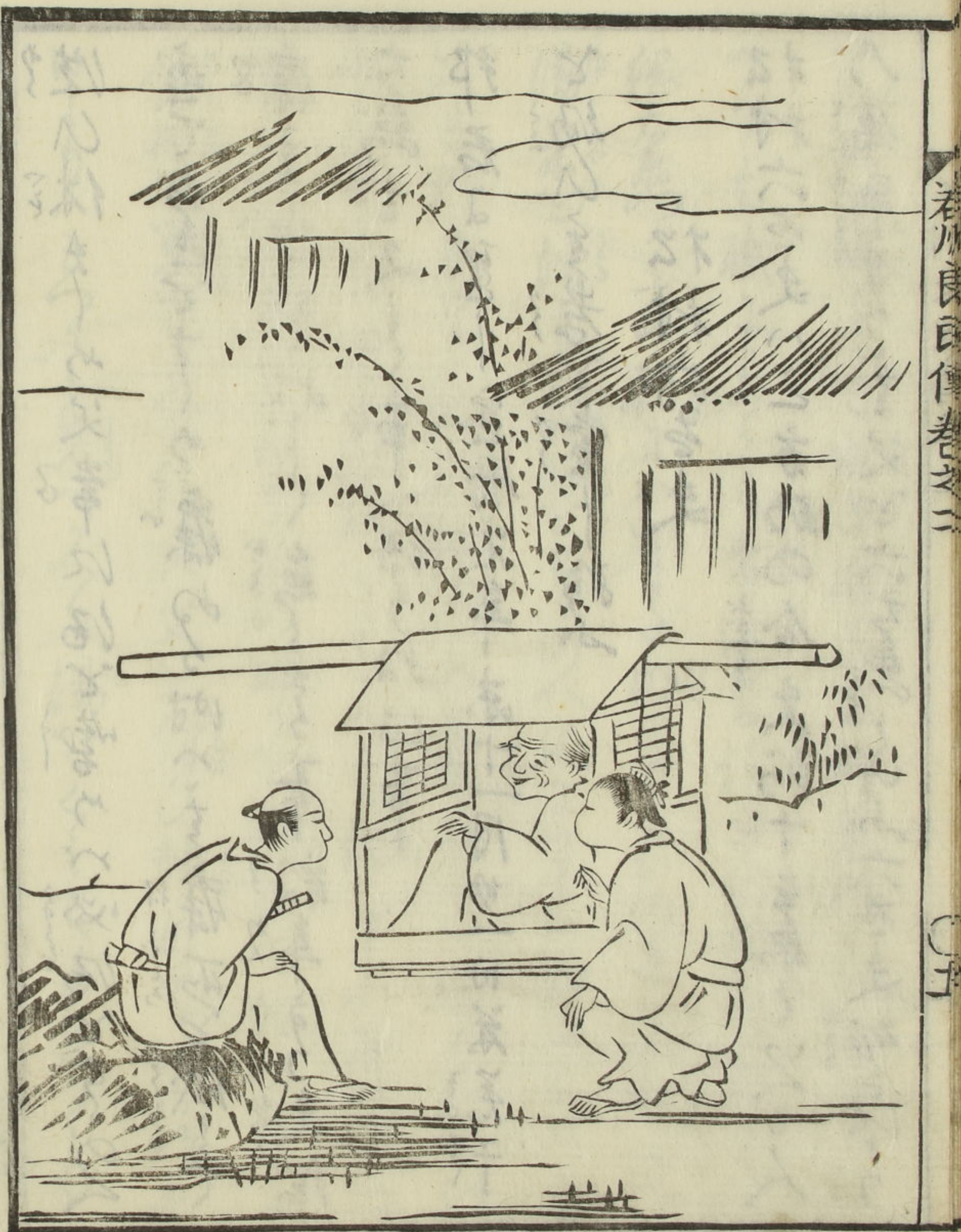
年々い沼と文是と以田地と須人救年と神定保
 え年にもつたふけ田地の他地と以永世肝葉の
 給沼及び御率ふあつる給沼ふことくく毎
 程修りあまば御内ふ虞の儲くなり一重又困窮
 の若の救とあさん事と定むい事委しく
 政府より一宗あるが廉潔ふしてま同御は功ある
 と賞でし定宛延元年辰十二月麻上下とト一細
 りるま後救年と度く宝曆二年酉の冬筑屋敷
 今此肝葉保甲の若と倡ひ宗あるが宅ふまいて

云先の年宗ある肝葉とつて免あひ一財久し記
 辛勞と以御内永くの恵とあふい我あへて
 何ともあふまひい事を謝するれあふ一財ん中
 とお積すといふも御中其給のもの多く是と被
 ゆり乃御なりと定ふといて宗あるが家足まう
 田村の公役とつとむる用二村の役と御内より免む
 づいたといひゆと肯ひ給はむといふと自今二村
 の役の介へ出さうじづらふあ変でうと云宗ある
 が云府強神とくまふらへていふと

官廳に告げてね、定めん事ハ 上と蔑ふも
 不似たり只 公裁と訪んよ、志とやつひも
 終ふ 公所は告ぐ有司と進と強いて町内乃若
 奇特の志あるを、角と何とて、下知と解よ
 今よ、あゝ、四朝の月、二朝の役ハ町内より進と
 備ふ事、うねりぬ

松文、松文、妻の死
 小濱、常徳なり、河久た、妻の死、下れ、足腰、松文
 松文、妻の死、父の事、うねりぬ





ころころ昇てあう近き山王の處より連ねてさへ
 とたのーまじむ六ちま一年まじくけいけい氣にえさう
 一ふさひ乃卯平金一ろくま聖年母より
 又そのあけの年父はかくまぬ終はさ身先さく
 父母は悲しきとて死せまじとてる初急のころより
 ぬり事偏し孝人の感涙あふさうんとく称し
 ぬ人といふ事
 君徳はまじ一宝曆八年寅十月
 廿七日未若干とぬいて終へ

尾内村陳玄清

陳玄清
 今人
 佛徳寺
 トカト
 今モモ
 家尾中
 おニナリ
 寺已秋
 本所おニナ
 子ク

大飯郡尾内村は陳玄清といふ姓しき氏ありて
 質直涼めて人とていひのん涼く常は父母より
 事し孝人なり父は中や弟あり母は年老ぬ
 るまじく親恙あり安んず自由なる陳は涼くこれ
 をたすけて豆飯を抱んとてそより七月盂蘭盆
 會といつるよハ因俗踊となりて舞を催すあり
 捷里宮郷といふと女帝の歌集より踊の戯と
 名を承き母は向いて踊と見んとてひき見
 せむるべしといひて自らも母と背負ひて所へ



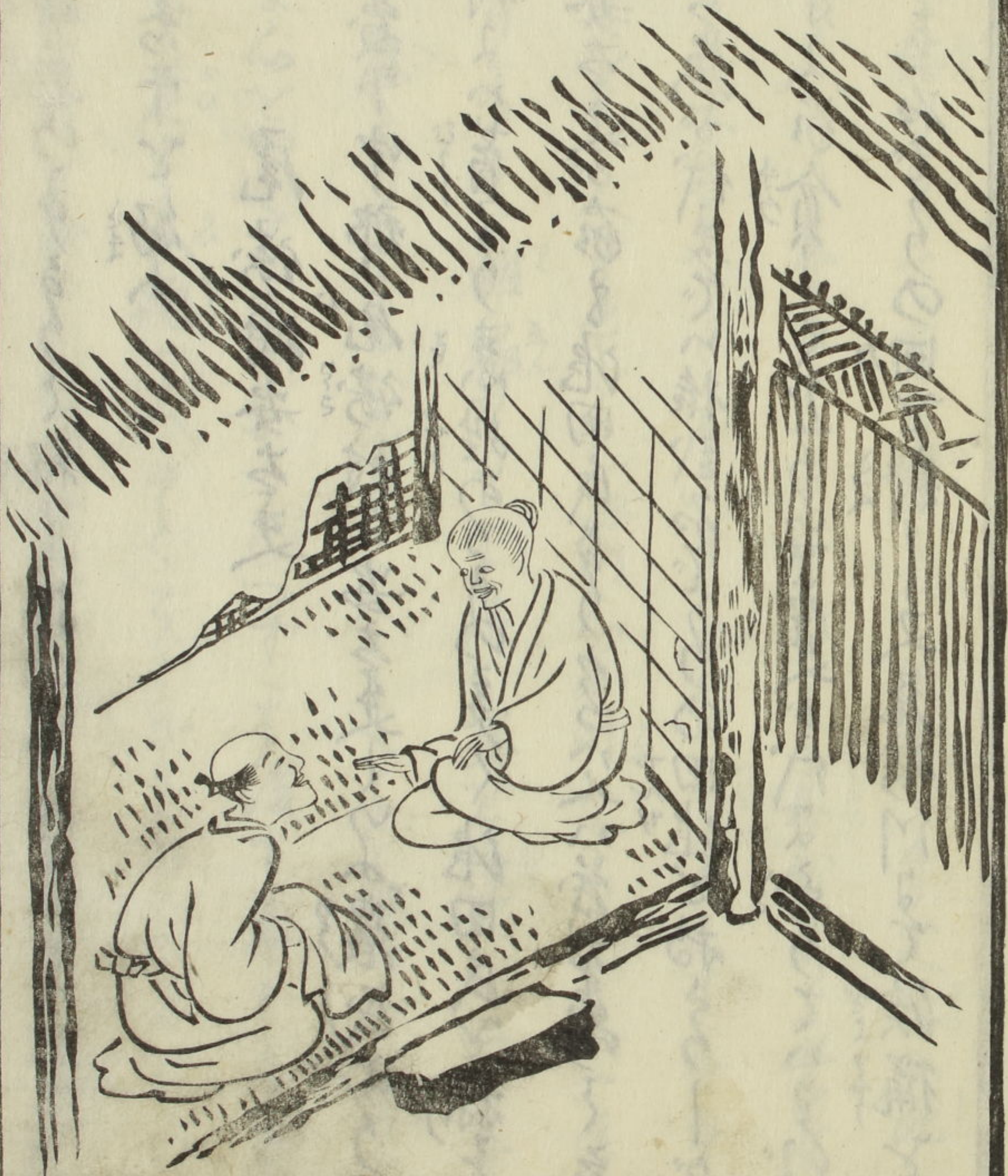
けて踊と見てくれを母とふねびぬ母は年老ひ
 後よへはきぬ負ひけ事も叶はざる様とていふの
 か家よるくくうう踊とかりて母は見てくれと
 慰めくう務く親と悦とていひて事とすといふ
 古人の訓も恥ざうてう後母とびーほ二人
 の姉わりくう事とふ父母は事とふくく
 赤ひ痛くくう務めて厚く又人を更て後初
 うも人の云は居くず村中の若と聊の事とみな
 うどあふ児童の親ひまでもはきぬは懐きぬは

へ形く又そ家宅西園順後とる諸人の常は通る
 儼とる中よふ年老或は幼穉のりるく足と痛め
 歩けよ若くくも路続乃能とかけきハ竹雲よ
 赤くくもかたおの若とんくへはきぬは
 送り脚けか中坂勢坂とるくく陰難とて自負ひ
 て越さぬ事とふくくびるうま意にれはけ一
 事とふ推て知くく一は数件却奉てそと称く
 終よ官廳よききくく被が父母よ孝ふ婦と
 せくく且人と恤むの志切ると貴くくきき干

と初^{はつ}干内室曆十一年己十二月の事なり

三松庵久次郎

小湊の町は三松庵と号^{なづ}して俗^{ざう}劇傀儡^{くわい}の流^りる
 のわり久次郎初^{はつ}の時より主^{しゅ}佐新七といふ若^わの
 母^{はは}は喜^{よろこ}ひき厚^{あつ}く母^{はは}と交^{まじ}りて久次郎喜^{よろこ}ぶも母^{はは}
 と忘^{わす}れど孝^こ行^{こう}を^{おこ}しむる事^{こと}年^{とし}たり後^{のち}は母^{はは}
 とおのまが家^{いへ}より^{より}衣^い服^{ふく}飲^{いん}食^{しょく}と^{とも}に^に先^{より}日^ひ夜^や
 孝^こ行^{こう}を^{おこ}しむる事^{こと}年^{とし}たり後^{のち}は母^{はは}
 政^{せい}府^ふより^{より}玉^{たま}く妙^{みょう}に^に此^これ^れが^が志^しなり



て奇^き特^{とく}のゆりりと称^{なづ}け給ひ宝暦十一年己丑月
米^{こめ}美^み千^ちと細^{こま}小

尾碕村安を吏

を安^{やす}下^{した}中^{ちゆう}郡^{ぐん}尾碕^{おさき}村^{むら}に安^{やす}を吏^しといふ農^{のう}民^{みん}あり
け村^{むら}にハ昔^{むかし}より素^{もと}姓^{しやう}ありのまゝに池^{いけ}田^{でん}氏^しと称^{なづ}を
け安^{やす}を吏^しが家^けも池^{いけ}田^{でん}氏^しありのまゝに父^{ちち}ハ茂^{しげ}を忠^{ちゆう}つと云
茂^{しげ}を忠^{ちゆう}が代^{しろ}までハ振^ふ式^{しき}をむくの田^{でん}地^ぢと持^もちうーが
池^{いけ}田^{でん}は家^け貧^{ひん}しくなり安^{やす}を吏^しが代^{しろ}よりてハ
うふを石^{いし}むくの田^{でん}と耕^{こう}ー又^{また}尾碕^{おさき}川^{がは}を浚^{しゅん}堀^{ぼり}と

市^{あち}とらりて市^{いち}に齋^{いはい}をて生^{せい}業^{ぎやう}とす父^{ちち}前^{まへ}ふ死^し
母^{はは}も人^{ひと}のり年^{とし}九^く十^{じゅう}一^{いち}に生^{せい}れつと甚^{しん}むがりの老^{らう}かな
もむと安^{やす}を吏^しより事^{こと}つと老^{らう}とす二十^{にじゅう}年中^{なちゆう}
お妻^{つま}とむくことと母^{はは}のふけハむく一^{いち}年^{とし}
むくよりむく離^{はな}縁^{えん}より、ま後^{のち}ハ妻^{つま}と遠^{とほ}くど二十^{にじゅう}年^{とし}
中^{なかつ}と居^いよりまゐるおのこ二人^{ふたり}よりむく母^{はは}のふけハ
折^およふとつくと事^{こと}もろつとすま後^{のち}十年^{じゅうねん}むく
母^{はは}年^{とし}老^{らう}より抱^{かか}一人^{ひとり}ありとむくあるふく女^めとむ死^し
てたをけとふくむけ女子^{こし}を式^{しき}人と考^{かう}り早^{はや}穢^せ乃^{なり}

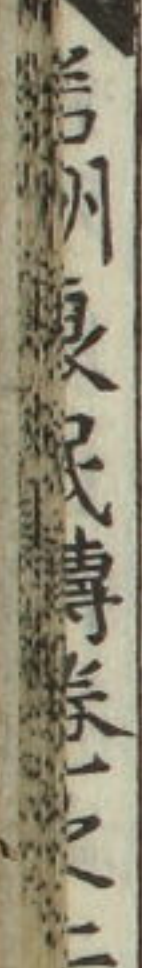


智ひし女子のまばらとて妻とする事かきとて
安きまへ万一母のふけいなる時へ不孝免る可
しと思ひ妻とする事ね一家の有る事其母の
ふはぬせうなりとておのまじきに事
きくもぐく母は同じ様も母に形さぬま平生
ふはぬ夜食のむいもふ自由なりとて折よく
ふとそせども家折よく免るべし志乃伸さ
ふ事と平生人をも得てうとて人候は
てい度毎ふゆふ所の船の中ふも大なりと二つ撰

と草とあつてとて必持ゆり老母すむい
の事おねふものも皆あきと知るま後ハ船二
ふととてゆり是ハ船二つと持ゆり老母食ハ
ゆりて安きまへとて何ふとすむいとも老母
ゆり年ハ二つと持ゆりなりとて月なり事
すべしと折なり那の令そ村の里長又隣邑の若
いもと折なり妻とてゆりふけいも孝状と称して
感ぜざる者なり因る 邦君はまじき
宝曆十二年辛酉月安きまへとて若干とゆい

卷之六

1875

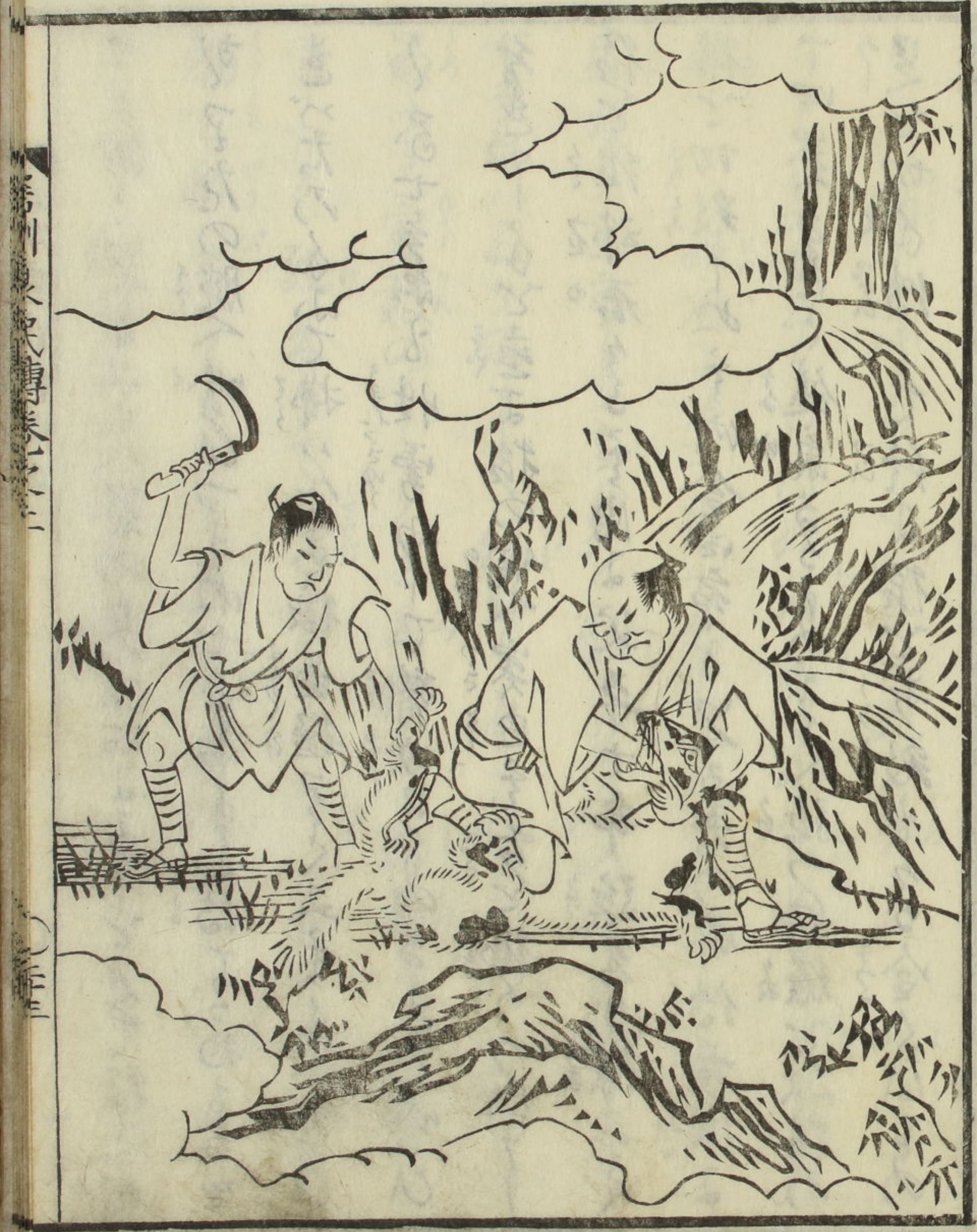


易く引あげ難うと友人力と合せて助をハセー
奇物の志人々称譽してやまず終に事なかりし
よをせしむるを氣を賣せしむる兄弟は未と細
事若干あり宝暦十三年二月の事なりき

相田村平十郎 七五歳 傳古

宝暦十四年申二月乃以之方郡お田村といふ所の
邑民の子を撫養より撫二之衆といふの者二人つ
立る所の山に采と薪よりふお田村出でた
ふたつ月傳十郎傳松といふ十二歳なるもの小飛

かすめ給く年立ざるものあるをばお田村といふ
る只因章怖きく述迷ふ根をきく小松と喰ひ
底殺すおふといふ時平十郎といふ六十又衆の
を人きく新と伐りて居たりといふお田村と見
付かりし根をきく述迷ふ根をきく小松と喰ひ
とお田村根松とお拾て平十郎といふ死かきり腕と
喰ひ傷つあききり生れ付剛強なる者なりき事
ともてお田村の所の縁といふ蘿拂ひぬき根を
返さるお田村の所へ下りてお田村といふ平十郎が傳



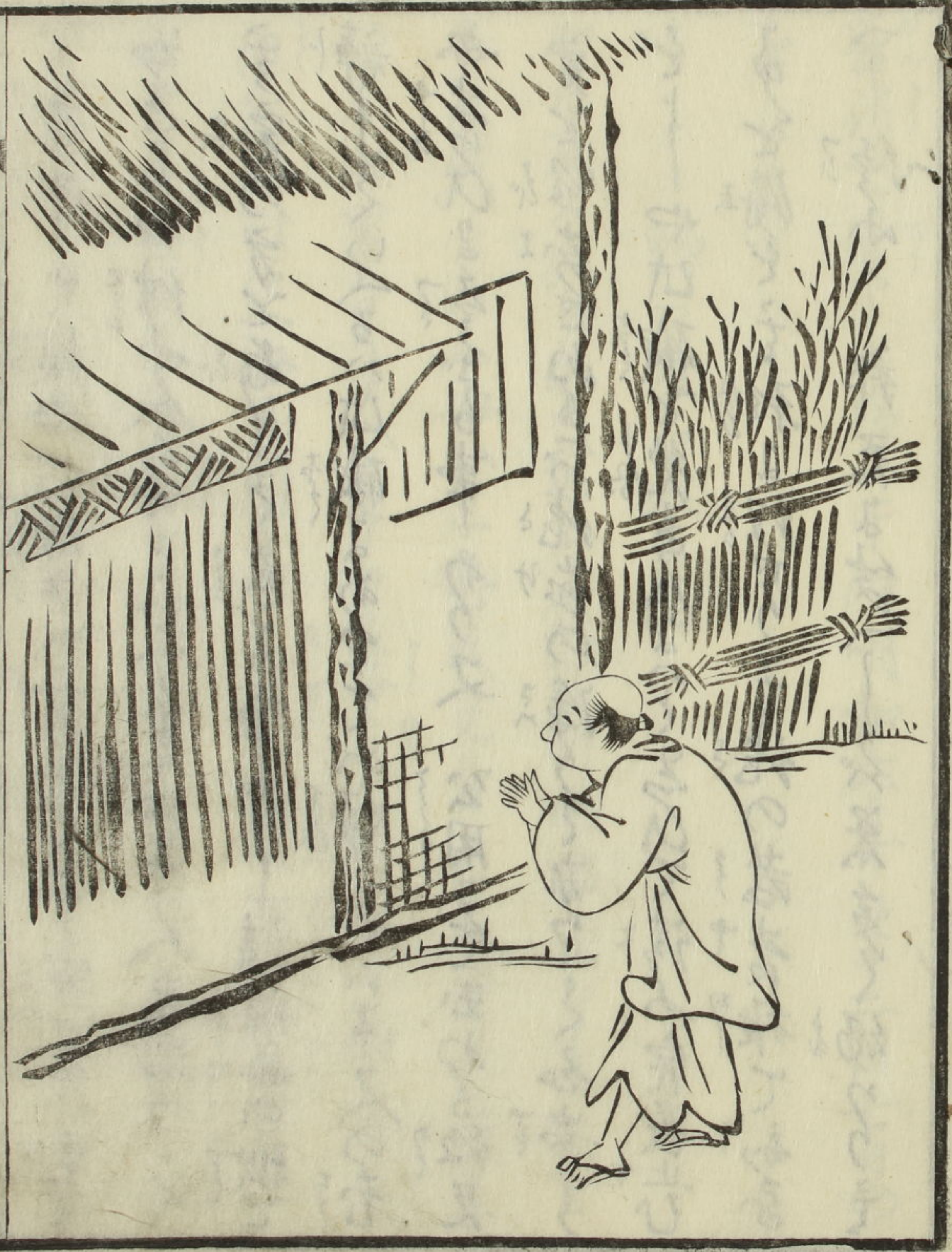
老翁自傳卷之二

七多勝といへる二十八歳のめい西よりと刀を指又飛
かすたの腕へ喰ひつゝぬ七多勝より持てる物もなせ
まばたのふて拂んとを指益強く又まふ喰ひ
くふ七多勝も性勇めて膂力ありのるを喰ひ
分ちしとて並は指の咽へ突也そちと極うつひ
指と紐却居るも内は父平十希強あり嫌むく
指と切殺しぬす附金四希といへる若の伴侍者僅は
十四歳のまど健氣ありのるく強つけ嫌ふ指乃
是と切も指して終は指と切殺しる令くけもの

どもの働さふよりく松が必死を免れしを傷み
らうりめなりけは始終具ふ官長はまきり
那 政府は父へ平十希老人といひふ一ふ
病けりまきりまきりと顧む人の死を救ひ又
七多勝ハ三ヶ所まきり傷けりまきり終ふ指と紐
ぬく勇敵のまきりまきり且侍者が幼弱うて腹する
事なく強ありて助とるす志いづまを奇特る
働と称美ありくそ年各不殘恙干と細うる

納田終村孫玄来

を發下中郡名田庄純田終村孫を束とてするものハ
 其村の保正なり其質良なり其孝につとめと死ぬ
 事純は誠なり終母は事して孝純なり平生食物
 美甘の事ふんとて其田圃へ出る事も必度毎ハ
 母へ告げぬまば先母乃前ふり其安否をうきひ
 暫く四方山の物産をとりて後返く役まつて
 城下へ出るといふ母へ告戸所なくいふ母の方と
 ありて其村とぬぬおのき家になざる肉ハ純へ書子
 にはハせし中妹ともと招き寄母のふそむるを見る



と教ふし後山の城下へ移りて官長の宅と
 出てもお供の人ありていふも必き人立ゆりて
 そ宅の方とありていふ事なり後保正の職と
 辨しゝるハハ職はありていふ人のを
 母中ひよりいふ事なり又 公用にて出ぬは兄
 弟と母あせぬは他家の滞りとなりていふ
 どりやけ職と免まんといふて後官長止む
 ると後いふ事なり此の若貴推ていふ
 一終ふ 邦君はさへいふ事多くいふ事

若くは貴し終ふ干時明和六年十二月七日の
 事なり

野口屋を以て清

野口屋を以て清ハ越前敦賀所の磯屋なり父と
 左近衛といふ母ハ宅氏兄弟二人ありて左近衛
 ハその男なり人となりて若友とて若き時より陰
 徳と好む父母のいふも不便と加へ漸成長するふ
 より父とていふ居ていふはいふに次ぎいふと
 して兄といふ事なり若くは父といふ止

りと得ど同御は別宅一古衣の類と鬻ぎて生
 半と質素儉約ありて幸に能くたくり人の
 艱難と救りんとし朴ぬ十年修り立く父母を
 亡びて後事に見れば其家貧乏は決まんとするを
 志す人おろそか家の事しぐく妻女子附託
 一產と破れく皆兄の意に納るそ身も兄が家
 新て奴僕と同くつとら毎び兄の家と無さんと
 漆るあまひ笑くもの初るも初るぬそそ友誼と感
 ぜざるハカ一こそより先一年大雪ありて家と埋む



せうりなる事救月町中太は若くは倭よりぶるの
 多しそは誰とも知れど救済は御巻とめづりて
 飢を此人の家とてうひ養ひて投へるすくはる若
 こそ母を謝せんとおとこをさし人を知らず後又金銭
 あと封じ飢寒のふと給ふ道と書記して巷
 老るる小文山家が宅に投へてある小文山司市局に
 告ぐ市令下知してそ金と飢寒の若くから与へ
 一む町中の豪家これとてて感激し名を養ひて
 出く飢るものを救ひてふ倭死よりぶるの市令

主人と救めん事と令して種くは本きても好む
 今年八月ふるばは時ふり町中倭人種とせん
 飢人と救ひても救めくはた次々来りんとて
 於て市令を以て来とててむそふけ事とるぬ
 ち次々来り畏伏くうて云々後けりあつたれ
 常より一養とてあふ費さびて人の窮難を救
 りんと欲ひ連年貯つる所よりふ二十余金大雪の
 年よりあひ救んとてくとも万分の一よりも足らず
 は小文山の家より投じうりや通和よりふけ事死

すゝも人よ告^つまじと志^{こころ}るふ今 公^{かみ}所^{しよ}あて^{あて}忍^{しの}び
あふ若^わ菜^なと告^つざる時^{とき}ハ 上^{うへ}と歌^{うた}くの罪^{つみ}遁^{のが}るふ而
まゝあふまゝ一^{ひと}終^{はつ}と告^つゆるなり 歎^{かな}くはば^は他^たへり
一^{ひと}終^{はつ}て僕^{われ}が初^{はつ}の金^{かね}と遂^{つい}にめ終^{はつ}て大^{だい}幸^{さい}あるん
と云^い市^{いち}令^{れい}感^{かん}祿^{ろく}して詳^{しょう}ふ 君^{きみ}礎^{いし}はなと

侯^{こう}大^{だい}は感^{かん}ぜさせ終^{はつ}ひて明^{めい}和^わ七年^{しちねん}寅^{うし}二月^{にがつ}二日^{ふたにち}若^わ干^{かん}
と初^{はつ}ひ又^{また}先^{さき}の年^{とし}赦^{しやう}のためふ出^でせし金^{かね}後^ごともく
くびく初^{はつ}て厚^{あつ}くそ若^わ干^{かん}と賞^{しょう}せし又
靈^{れい}岳^{がく}公^{こう}は事^{こと}と礎^{いし}にられま終^{はつ}て感^{かん}づみし後^ご

若^わ干^{かん}と終^{はつ}ふ

早^{はや}瀬^せ浦^{うら}佐^さ左^さ妻^{さい}い

三方^{さんぱう}郡^{ぐん}子^こ瀬^せ浦^{うら}佐^さ左^さ妻^{さい}い
となぐく舅^{きやう}姑^こは事^{こと}へく孝^{かう}あり佐^さ左^さ妻^{さい}い
舅^{きやう}一^{ひと}く事^{こと}にまゝ他^たふは負^お商^{しょう}事^じと業^{わざ}る一^{ひと}家^け
又^{また}海^{うみ}事^{こと}救^{きう}日^{にち}と終^{はつ}るいともまゝかゝれ舅^{きやう}と代^{しろ}り
いゝものたゞひかなとてとまゝをく出^でて舅^{きやう}姑^こ
は事^{こと}へいゝと云^いふは宵^ようど姑^こ先^{さき}は亡^なび舅^{きやう}八^{はち}十^{じゅう}餘^{あまり}
乃^{すなは}長老^{ちやうらう}は乃^{すなは}び終^{はつ}て年^{とし}以^{もつ}病^{やまひ}を辟^{ひら}いて婦^ふは對^{たい}し

て^{きさ}幾^もう^もう^もを^も男^も笑^もつ^もべ^もと^も入^もる^も奥^もへ^もぬ^も又^も一^も年^も

然るに
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



うらたはねびおーいさねとくをりゆり留小刀を
やに洞くくあき紙をむねうけしき風は隣家の
屋根とあつらふ事なりく三人堂に居る人
佐左衛門が家の柱は孝一様おやん奥とつゝ人
怖る言ふことも形く止り居るふいとが門はわくと
いるやま奥と落しき遠は飛去るぬけあつた
んくの中もくくくおなり一紙は王様が鯉魚
をのり豆が争と堀りあきいづくあらんやん
ま孝威の天はむとると杯歌なりやぐく

公圃は建一明和七年寅丑月米若干と納めて
褒賞でくき後復 命あつていづかめと終る
もうぐま家の祖とあつて終る又

霊岳公よりも錢若干と納めて貴でく家

浦の長之宅素はいとが孝威と感一能治の度白は
紙一紙他邦はあつて清方桑白木若干と納これと上
の文は納め梓は錢若干と納集と異なると世は廣むきも亦
新物の志と云べ

堀屋敷村ささ

を安下中郡西津堀屋敷村はささといふ所

と女あり母は事つくま孝なり故に母ありて
一く平生人より雇ひて家内を治りて酒世とす志は
又母と孝なり事とくんとそ母より中へ入れ
先母より孫抱飯はまきと日けて孫一重有
の孫いづういふも喰ひて悉く持歸りて母ふ
修人、まんとあはれ、そ老母は八別はまきと
それハ孫といふも圓く辭して孫を母ハ十七歳
よりび久くおひく孫も立那ーこさる年六十
余より日教の看病旦いとなしふ、破れて母もめ



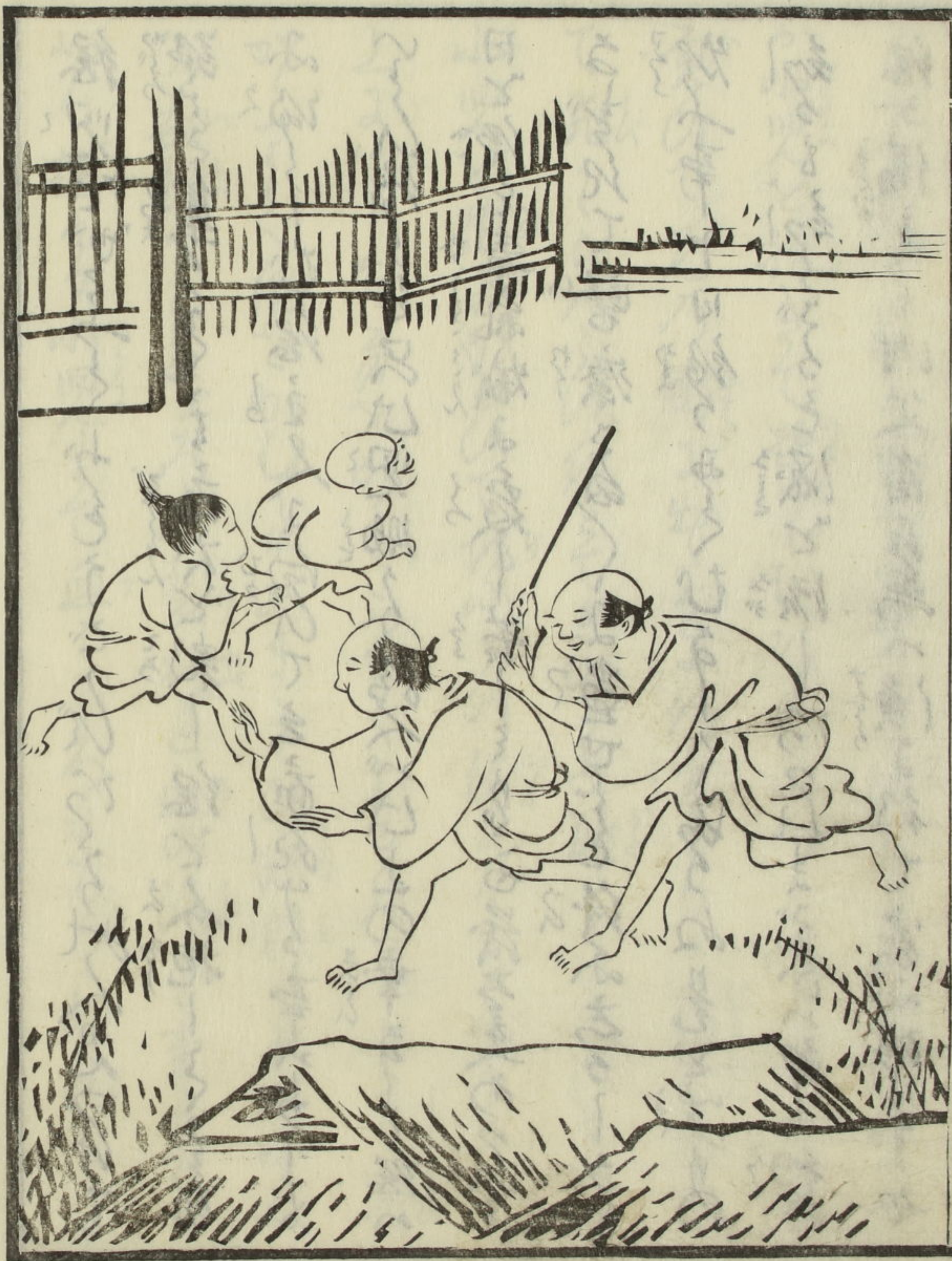
うろろす家量多しかり食糧乏しくいふ程
くよそりてまはる人の及ぶ程つくる事
船一後よ母老老一ささと供ふも難なる事多
ふれどもさかきふ違ひぬふ一二錢と増
もてかかれ菓子のおいとそれく多く病永言
のむぐさめとす母湯あそする事と好むとを新し
かれむささ演進より流るるふたの好いと
拾ひあめをゆりて焼物と目し湯あそとな
さうめざら事なり人くま志の厚さと感に殊

とあつめまゝ典農司は事と使人く
歴になす 庚寅一は天明八年卯二月晦日
後美下と幼いくそ篤孝と称せふふまはかて同
邑の民も 君徳の示さと信そ者お物もく
彼が志と違へりやう

小松原角太の女綱

綱へを爰下中郡西津小松原の漢父角太とといふ
りの女なり角太の家格うそ貪りく女綱は
西津より二方郡の典農司の属吏より松見義家

といふの家に^{あうま}なまは出^でたり経^き年^{ねん}十^{じゅう}五^ご年^{ねん}に^に成^なる
 が小児^{せうじ}と抱^かきて^て撫^なぐむ^むある日^ひつらも^もれ^れと^と児^こ孤^こ
 負^かひて^て乃^{すなは}懼^{おそ}は^はれる^るは^は方^{かた}う^うら^ら病^び大^{だい}甚^{しん}なり
 て死^しくらんと^とは^は経^きそ^その^のが^が難^{がた}しく^くあ^あひ^ひた^たれ^れば
 小児^{せうじ}と抱^かき^きか^かり^りて^て地^ぢふ^ふう^うの^の伏^ふは^はなり^りう^うづ^づう^うそ
 とは^は伏^ふして^て身^みと^とひ^ひく^くう^うせ^せぐ^ぐ大^{だい}を^を死^しる^るも^もろ^ろく^く死^し
 叩^{たた}つ^つと^と經^きと^とか^かむ^むゆ^ゆあ^あま^まう^うび^び底^{そこ}救^{きう}十^{じゅう}ヶ^ヶあ^あふ^ふ及^及
 び衣^い敷^ふも^もこ^こま^まが^があ^あふ^ふ裂^れ破^はき^き血^ちの^の流^{なが}る^る事^{こと}と^とく^く
 しく抱^かく^く小児^{せうじ}まで^で血^ちと^とう^うら^らな^なり^りぬ^ぬ御^ごふ^ふは^は



そのころとて、茂安が家より先小児の事故
同く、一玄女の事、及び人皆、綱女といひて
知る、あかりと稱する事、
邦君小をせー
う、まゝとあれ、主父は、錢と、ゆふ、又二の
士、は、ふお、つて、碑と、西津、西津寺、樹、
忠烈綱女之碑と、誌と、碑の、銘、鶴山小野先生乃
撰、むと、ころ、なり、主、後、明和八年卯又月
吾、彦、は、感激の、修、角、左、東、つ、が、家の、祖と、永く
免、し、あ、ひ、銘、が、墓と、西、徳、寺、の、門、外、に、改、め、葬、せ



終ひて地^ぢ子^ことゆ^いー寺僧^{しやうそう}は白金^{はくごん}と紡^紡ひて永^{とこ}く
 守^も墓^ぼの 命^{いのち}とト^とー終^はふ又
 靈^{れい}岳^{がく}公^{こう}も經^{けい}々^々忠^{ちゆう}誠^{じやう}と感^{かん}ト^と多^{おほ}い父^{ちち}角^{かく}左^さ衛^ゑ小^{せう}料^{りやう}是^{こゝ}
 若^わ干^{かん}と終^はふ

若洲良民傳卷之二終



